

大貫敬一教授、徐京植教授退任記念号の発刊に寄せて

本記念号は、2021年3月にて定年を迎えられご退職された大貫敬一教授、徐京植教授の本学における長年のご尽力への感謝の気持ちを込めて企画されました。以下にご両名のご経歴や本学におけるご活躍の一端を紹介し、多大なる貢献をされたことに感謝の意を申し述べさせていただきます。

大貫敬一先生は、東京大学教育学部教育心理学科をご卒業後、同大学教育学研究科において学び、研究の道を志しました。その後も地道にご研究を重ね、1999年4月に本学経済学部にて教授としてご着任されました。そして、2021年3月まで22年間本学のために貢献くださいました。そのご功績に敬意を表し、2021年4月21日には名誉教授の称号をお送りさせていただきました。教育面では「心理学」及び関連分野を中心に授業を担当され、ご自身のご研究に裏打ちされた豊富な知見に基づき真摯にご指導くださいました。常に落ち着いた、物静かな語り口で、他者へのリスペクトを忘れずに学生に接する大貫先生の姿勢からは、学べる部分が多くありました。

大貫先生は学内行政にも大変熱心に取り組まれ、とりわけ、学生相談委員会において常に中心的な役割を果たしてくださいました。2003年以降、2年任期の学生相談委員長を実に四度もご歴任されました。学生に常に寄り添いつつ、冷静な判断を下せる大貫先生だったからこそ、このような重責をこなすことができたのだと思います。

ご研究においては、長きに亘って深層心理を探るパーソナリティ検査、ロールシャッハ・テストに関する論文をご執筆し続ける一方で、心理学分野のご著書も精力的に執筆されました。以下はその一例です。『パーソナリティの心理学』（1988年福村出版）『心の健康と適応—パーソナリティ心理』（1992年福村出版）『適応と援助の心理学』（1998年～2001年培風館）。

私は、大貫先生から、学生の資質を高めるために教員たちが専門分野の垣根を越えて協力することの重要性を教えてくださいました。今でも強く印象に残っているのは2009年、21世紀教養プログラムの「オフ・キャンパス・プログラム」でネパールに学生を引率した時のことです。ある学生が、ライフラインの整備されていない山岳地帯に暮らす子供の心理テストを行いたいと言ってきました。普段大貫先生から大変熱心にご指導を受けていた学生です。大貫先生のきめ細かなご指導が取り入れられた活動計画書を受け取った私は、渡航前からネパールの関係者と準備を整え、現地で三日間に亘り、その学生の実験を陰で支えました。貧困村の学校で、直接言葉の通じない児童への心理テストを行うのは困難を極めました。私は意気揚々と取り組みました。何よりも、学生の実力を高めるべく先輩同僚である大貫先生と協働できていることに教育者としての幸福を感じていました。この経験は、大学という高

大貫敬一教授、徐京植教授退任記念号の発刊に寄せて

等教育機関における「学際」の意味を深く考え始めるきっかけにもなりました。

常に丁寧に他者に接し、学生の心に寄り添ってご指導に当たられている大貫先生から、大変多くのことを学ばせていただきました。感謝の念が尽きません。

徐京植先生は、早稲田大学第一文学部フランス文学科ご卒業後、作家や人権活動家としてご活躍されました。そして、本学で非常勤講師として二年間ご勤務された後に2000年4月、本学現代法学部専任講師としてご着任されました。その後准教授、長期国外研究員（韓国）を経て2009年に教授に昇任され、2021年3月まで21年本学に尽くしてくださいました。そのご功績に敬意を表し、2021年4月21日には名誉教授の称号をお送りさせていただきました。

徐先生が網羅する教育、研究分野は広範に及び、教養全般について多様な切り口から本学の教育、研究の発展に多大な貢献をされました。教育面では「人権論」や「芸術学」などを担当され、教室内に留まらず、学生を美術館や世界各地に引率するなど、オーセンティックな学びを重視されていたのが印象的です。

徐先生は学内行政にも顕著なご活躍をされました。全学共通教育センター長（2008年4月から二年間）、図書館長（2018年4月から二年間）をご歴任された他、21世紀教養プログラム運営委員長や史料委員会委員長も務められました。

本学着任前から既に、作家として日本エッセイスト・クラブ賞やマルコ・ポーロ賞を受賞し、多数のご著書や訳書をお持ちであった徐先生は、本学着任後も変わらず精力的に研究、執筆活動を続け、『夜の時代に語るべきこと—ソウル発「深夜通信」』（2007年毎日新聞社）『汝の目を信じよ—統一ドイツ美術紀行』（2010年みすず書房）『フクシマを歩いて—ディアスポラの眼から』（2012年毎日新聞社）『責任について—日本を問う20年の対話』（2018年高文研）など多数のご著書、論文を執筆されました。

私は2007年に本学に着任しましたが、その後数年間、思いがけず数々の苦難に遭遇し右往左往していました。そんな私を常に側で支えてくれたのが、当時、全学共通教育センター長であった徐先生でした。当時の私は、恥ずかしながら、徐先生が現代を代表する社会思想家であることなど露知らず、自らが直面するあらゆる問題について無遠慮に相談に乗っていただきました。2011年、東日本大震災当日には、帰宅難民となってしまった私を国立市のご自宅に温かく受け入れてくださり、先生の何よりも大切な書齋に宿泊させていただきました。

その後、私の中で次第に先生の「正体」が明らかになるに連れ、それまでに行ってきた数々の無作法な言動に、顔から火が出るほど恥ずかしくなりました。しかし、現代の「知の巨匠」と身近に交流し成長させていただいた私は、とても幸運だったとも思います。

謙虚な姿勢で他者との対話を大切にし、落ち着いた物腰ながらご自身の強い信念を学生や

教職員，社会に語りかけるお姿からは大変多くを学ばせていただきました。心より尊敬する恩人です。

お二人が本学に残してくださった「知の文化」を我々が覚悟を持って継承すべく，教職員学生一同邁進していきたいと存じております。最後になりますが，大貫先生，徐先生の益々のご健勝とご発展を祈念いたします。

全学共通教育センター長 関 昭典